

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p>1. 人材育成、教育の方針 <u>人材育成の方針</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の精神“Mastery for Service”を体現できる世界市民の育成（平和な社会を築く担い手としての世界市民） 2. 関西学院大学の中核となる生徒の育成 3. グローバル社会を生き抜くアクティブラーナーの育成 <p><u>教育の方針</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教主義教育に基づく全人教育 2. 礼拝(聖書)、人権教育、平和教育、国際理解教育、自治活動、HR活動、クラブ活動やボランティア活動など、あらゆる教育活動を通して基礎学力の定着を図り、批判的思考力、判断力、表現力、探究する力を養う 3. すべての教育活動において、「Kwansei コンピテンシー」の育成を念頭に置いた、(教育基盤)改善の取り組みを行う 	<p><2024年度のありたい状態></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の精神“Mastery for Service”が実践できる場があらゆる教育活動において提供されている 2. 全教員が高等部の目指す学力および学力観を共有し、主体的に学ぶ力を持ったアクティブラーナーを育成している 3. 多様性に富むインクルーシブ・コミュニティが形成されている 4. 生徒が他者の言葉に耳を傾け、自分の意見を自分の言葉で表明する、また自らの確かな情報を得て判断行動することができる
<p>2. 児童・生徒獲得の方針 <u>・優秀な生徒を確保するため、入試・広報戦略の見直しを行う</u></p> <p>生徒に引き続き「選ばれる高等部」であるために、これまでの広報戦略を見直し、より多くの中学生・保護者等に、より効果的に高等部をアピールし、「第一志望」としてもらおうための努力をする</p> <p>具体的には、以下の4点の改善を行う</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 入試制度の改革に着手 ② 学校案内等各種広報ソールの改善 ③ 費用対効果を検証した上で、新規の広告媒体への出稿や外部説明会の実施を検討 ④ オープンスクールや外部説明会実施方法の改善 	<p><2024年度のありたい状態></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等部の教育目標により合致した、新しい入試制度が完成している。 2. 入試倍率・入学者(特に上位層)の成績レベルが維持されている。 3. 外部での学校説明会などにおいて、高中教員がそれぞれの学校について、十分な説明ができる
<p>3. 中期的な課題 <u><フェーズⅡ(2022～2024)></u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教主義に立つ建学の精神を堅持するための教員研修 2. 教員の労働環境の改善を図り、適切なワークライフバランスの確立を目指す(特にクラブ活動における教員の関わり方を改善し、仕事の軽減化に力を入れる) 3. 「Kwansei コンピテンシー」を身につけるため、正課・正課外教育の中で、ICT を適切に用いながら、批判的思考力、判断力、表現力、探究する力を養う、アクティブラーニングの実施及びカリキュラム化 4. 初・中・高間での情報および学力観の共有 5. グローバル人材育成と国際理解教育・人権教育の充実 (ATE教員の長期雇用) 6. 財政基盤の強化のための募金活動の推進 7. 少子化に向けた高等部の価値を維持・向上させる環境整備(築34年となる校舎内のリノベーション) 	

【重点施策】 (中期的な課題を解決するための重点施策を箇条書きしてください。「中期総合経営計画」の実施計画がある場合は、第1順位にしてください。優先順位の高いものから5つ程度)	【中期総合経営計画 実施計画】として取り組むものに ○
① 総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	○
② 「大学生メンター制度」の展開	○
③ 働き方改革に伴う各施策	
④ 「Kwansei コンピテンシー」の育成のための教育目標の策定と、その目標達成のための基礎学力、批判的思考力、判断力、表現力、探究力向上のための教育の活性化	
⑤ グローバル人材の育成と国際理解教育の充実	
⑥ 策定された教育目標に沿った入試制度改革とそれに基づいた広報戦略の強化	
⑦ 少子化に向けた高等部の価値を維持・向上させる環境整備	

【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

スクールモットーの認知度・共感度

内部進学率

新たな「学びの先取り」科目の設定

働き方改革の進捗度合

「Kwansei コンピテンシー」育成のための教育目標設定と教育の活性化

生徒対象のアンケート調査

入試制度改革の進捗度合

目標や実績を踏まえた次年度に向けた展望】(2024年3月末時点)

<1. 2023年度の中期計画の状況、課題>

- 「キリスト者条項ワーキンググループ」、「入学者男女比ワーキンググループ」での議論から一定の意見聴収、将来への考えが示されたが、今後学院も交えたキリスト教主義を支える高中部、高等部の在り方、また入試の在り方の検討へと移行していく。
- 「働き方改革」は2022年度2月より延べ約30回に及ぶ会議を経て、制度設計完成に向けて鋭意作業を進め、高中部教員での検討会として合意を得たものを提示できるまでに整った。最終的には学院との話し合いとなるところで、最終形には達していない。
- 基礎学力、批判的思考力、判断力、表現力、探究力向上に向けた教育課程を新学習指導要領にも対応させながら、WWLC事業を継承する「探究型カリキュラム委員会」が主体となって「Kwansei コンピテンシー」が育成される環境の整備を行い、探究型授業、PBLの深化を図り、成果発表の場を設定する。今年度も新たな科目設定を行い、教員による自主研修会も毎月開催している。
- 初中高で共通の理念を共有しての「生徒支援」や「保護者対応」などにあたるため、初中高で共通のツールを用いて定量的データを集積し、また外部講師の方からの研修の場を設定し、まず初中高の管理職での研修を実施。そして、来年度での初中高全教員での研修会につなげることを計画中である。

高大連携による「学びの先取り」の環境については昨年度目標を達成したことをもって、今後の目標設定を終えることとする。また、生徒の内部進学率94%を継続して達成されていることからこの目標設定については今年度をもって終了とする。

(番号は「中期的な課題」との対応した番号)

<2. 学校評価の取組みにより明らかになった課題>

- 学習指導要領改訂、文科省指定事業、ワールドワイドラーニングコンソーシアム支援事業の継続による探究型授業の一層の深化を図っているが、評価についても観点別評価など、新しい評価法が導入してきた。それに伴い、大学受験に縛られない高等部の教育を適切に測る指標、評価項目の変更・追加を行ってきているが、生徒・教員ともにいまだ従来の観点から脱していないところがあり、その変更内容等への理解を深めて、教員が新しい観点到って評価し、生徒が評価されていることを実感することが肝要で、経年での分析の継続が必要である。
- 進路指導、関西学院大学への接続に関する情報については、生徒・保護者・教員とも情報を得られているという実感を持っているが、AiGrow の活用での自己分析や大学進学にとどまることのない進路指導には十分には至っておらず、生徒・教員ともに的確な分析と、それをもって進路指導につなげる手段などの改善を図る必要があることがデータとして明らかになった。
- 生徒指導、人権教育においては、保護者に日々の指導や人権教育で行われている教育が、十分に情報としても伝わっておらず、そこに理解度における生徒と保護者の乖離があり、そこを埋める方策が必要である。
- 目標に掲げた探究型授業を見据えた教育環境整備については、高等部としての築30年以上となる男子校時代に建てられた校舎内の抜本的なリニューアルを構想として掲げ、構想図を描くことまでは着手できたが、今後の展開がまだ明確に具体化できていないという課題がある。

<3. 上記1, 2を踏まえた2024年度以降に向けた展望>

- 同時進行で検討している「キリスト者条項」、「入学者男女比」については2025年度に一定の高中部としての結果を得るべく議論を重ねていく。「働き方改革」は新たな制度の下、勤務時間管理を伴った「働き方」に移行するための制度設計が学院として策定完了となることを目標とする。
- 初中高においての、実のある一貫したキリスト教主義教育や生徒支援などを議論する場を設定し、より強固な一貫教育の実施に向けての施策を実施する。また、同時に初中高教員の互いに顔が見え、議論ができる同僚性を高める施策を実施する。
- 「探究型授業」のより一層の正課科目における浸透を図り、行事の見直しも連動して実施し、高等部教育の集大成の在り方についても改革に着手する。
- 高等部校舎が築34年となり、また共学化時にその対応のために手を入れたものの、現在の教育内容など様々なところでその環境に合わない状態が露呈しており、そのため的高等部校舎全体にわたるリノベーションの実施計画が学院としての正式な建築計画の俎上にのることを目指す。

取り組みの全体像(イメージ)

“Kwansei Grand Challenge 2039”長期戦略テーマ:「特長ある一貫教育の創出」・「内部進学者の増加」

“Mastery for Service”を体現する
世界市民の育成

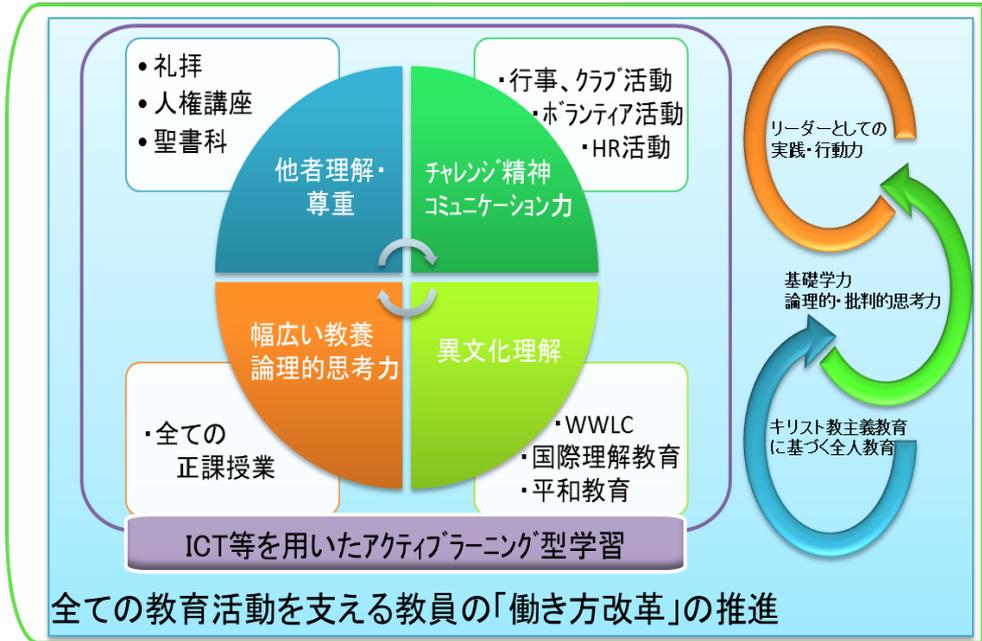
感謝・祈り・練達

“Mastery for Service”を
実践する場としての
高等部

優秀な
生徒確保

関西学院大学の
中核を担う生徒

- ・主体的に学ぶアクティブラーナー
- ・ダイバーシティ、インクルーシブな感覚
- ・グローバルな視点と課題解決力・行動力



「第一志望」として
選ばれる高等部

- ・入試制度改革、広報戦略強化
- ・初等部・中学部との更なる連携強化

関西学院中学部

関西学院初等部

以上